



大正
見
一
記
重
郎
代
下

特42
879

上

八尋の山をたづねてあつたのてまじりて

赤まゝあーゆきの願ふまゝとて

小玉精これと笑とあひけ

軽と中成らんと才花のふ

霞ひまかふのあふねと

程く小流せりて

あすほど才花の

ふもそのあふねと

あく世帯のまゝ通ひ

室小なる日ハ掃まる

あそ妻のあつた

ふとらほめあつた

あそあふ小野いふる



あそあふ小野いふる

あそあふ小野いふる



捕縛して上は其の...
 始末の程は...
 捕縛して上は其の...
 始末の程は...
 捕縛して上は其の...
 始末の程は...

重太郎

玉結

岩見



岩見...
 捕縛して上は其の...
 始末の程は...
 捕縛して上は其の...
 始末の程は...



後尾西白河
後尾赤仙香

真尋大

真尋大

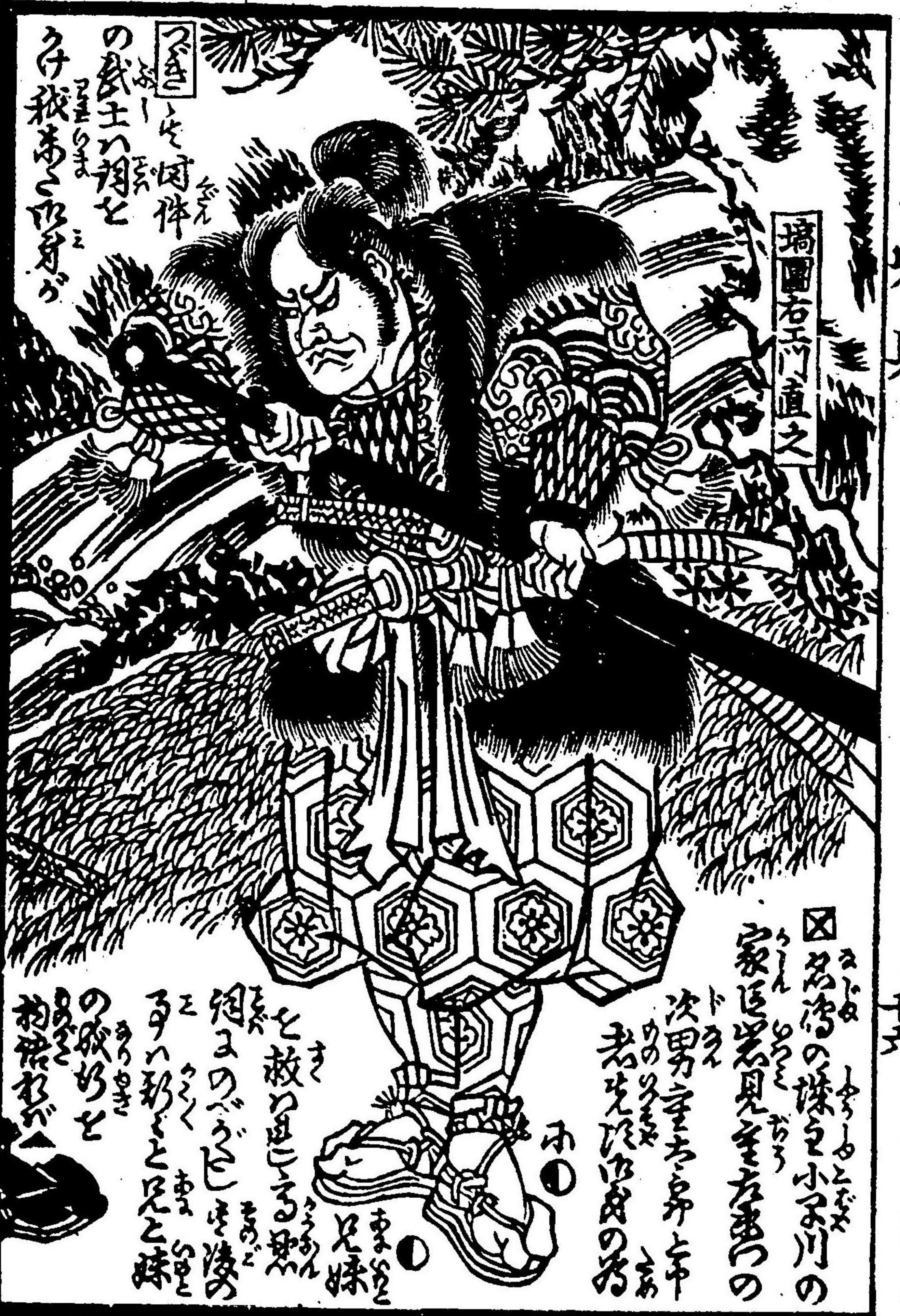
因 王 之 戦 入 控 聖 景

おてくるまの
接合
おてくるまの
接合

山の中
出合
容積
笠の
彼は

笠程まで

岩見の場



岩見の場
 の武士の相見
 子我あつての身か

岩見の場と小糸川の
 家は岩見屋をたつたの
 トラス
 次男をたつた身の上
 岩見屋の岩見

と救ひ出さるる
 岩見の場と小糸川の
 岩見屋の岩見
 の岩見と
 岩見屋の岩見

如き英傑は世に
 一王は世に
 殿へ何人あるや我
 加ふるた曲殿の信
 岩見の場と小糸川の
 岩見屋の岩見



岩見屋の岩見

岩見屋の岩見
 岩見屋の岩見
 岩見屋の岩見
 岩見屋の岩見

母後ははのちちの遺なごを承うけたまり
 植松うゑまつの遺なごと云いふ者もの
 徳行とくぎょうの志こころを合あはれ
 の上うへに父ちちの義ぎを結むすぶ
 乃すなはち植松うゑまつの志こころを承うけたまり
 徳行とくぎょうの志こころを合あはれ
 乃すなはち植松うゑまつの志こころを承うけたまり
 徳行とくぎょうの志こころを合あはれ
 乃すなはち植松うゑまつの志こころを承うけたまり
 徳行とくぎょうの志こころを合あはれ



岩見重太郎

母後ははのちちの遺なごを承うけたまり
 植松うゑまつの遺なごと云いふ者もの
 徳行とくぎょうの志こころを合あはれ
 の上うへに父ちちの義ぎを結むすぶ
 乃すなはち植松うゑまつの志こころを承うけたまり
 徳行とくぎょうの志こころを合あはれ
 乃すなはち植松うゑまつの志こころを承うけたまり
 徳行とくぎょうの志こころを合あはれ

母後ははのちちの遺なごを承うけたまり

植松うゑまつの遺なごと云いふ者もの

徳行とくぎょうの志こころを合あはれ

乃すなはち植松うゑまつの志こころを承うけたまり



植松藤兵衛

岩見重太郎

母後ははのちちの遺なごを承うけたまり

植松うゑまつの遺なごと云いふ者もの

徳行とくぎょうの志こころを合あはれ

乃すなはち植松うゑまつの志こころを承うけたまり

徳行とくぎょうの志こころを合あはれ

乃すなはち植松うゑまつの志こころを承うけたまり

徳行とくぎょうの志こころを合あはれ

乃すなはち植松うゑまつの志こころを承うけたまり

徳行とくぎょうの志こころを合あはれ

乃すなはち植松うゑまつの志こころを承うけたまり

徳行とくぎょうの志こころを合あはれ

乃すなはち植松うゑまつの志こころを承うけたまり

徳行とくぎょうの志こころを合あはれ

乃すなはち植松うゑまつの志こころを承うけたまり

徳行とくぎょうの志こころを合あはれ



加勢とて来れ十日

團右衛門

同天の橋を小
あり初討殺す

来りて空をば霞のよかて流

とてふきおきおのりおま

天の橋を十九年五月十日の

又小舟を舟の角に横松と共

天の橋をよみよりのふきま

元後平家秋葉津大川

加勢三

子入藏

後七

藤兵三
重太郎



虎之助

廣瀬
大川

あり
沙汰

後七

虎之助のまゝ

切つらふとまき勢を

内山百人解り流人の山

つゝなるか致し村を

虎之助のまゝ

虎之助のまゝ

加勢ありと
仇討つ

虎之助のまゝ

虎之助のまゝ

